幼児は過去のドラマ遊び体験をどのように描くのか (3)

○内田祥子¹・石黒広昭² (1 高崎健康福祉大学・2 立教大学)

キーワード：描画発達・経験・ナラティブ

How do children draw their experiences of drama play?

Sachiko UCHIDA¹, Hiroaki ISHIGURO²

(1Takasaki Health and Welfare Univ., 2Rikkyo Univ.)

Key Words: drawing / experience / narrative

目 的

子どもが自らの体験を表現するとき、その体験内容と表現にはどのような関係があるのか。従来の描画研究は、線描の形態変化を検討し、技法の発達を明らかにしてきた。しかし絵が子どもの体験の表現であることを考えると、子どもが表す絵の内容にも着目する必要がある。本研究では幼児が絵を描くことによって自らの体験をふりかえる過程に焦点をあてる。内田・石黒 (2018) は、描出内容と描出技法の両方を考慮した分類基準 (内田・石黒, 2017) を用いて描画を分類し、ドラマ遊び体験の深まりとともに、描出内容と技法に変化が生じ、体験した事実だけでなく、その意味付け (物語) までもが表現されるようになることを示した。本研究では、各幼児のドラマ遊び体験と描画過程、そして描出内容の関連性を検討することにより、ドラマ遊びにおける情動体験の質や描画過程での他児の絵の影響など、描出内容に変化をもたらした要因を検討する。

方 法

1) データ：札幌市の私立幼稚園 (学校法人東学園美晴幼稚園) の預かり保育時間に報告者らによって準備実行された約三ヶ月で一つのドラマを半即興的に参加者が共同創作していく「プレイショップ」のドラマ遊び活動場面とその直後の描画活動場面のビデオ記録、フィールドノート、描かれた絵。
2) 参加者：プレイショップに参加した 11 名の幼児 (年長男児 1 名・年長女児 4 名・年中男児 2 名・年中女児 4 名)、ファシリテーターとしてドラマ内に役割を持つ大学院生と大学研究者が 3 名、それ以外に子どもたちのケアに関わる幼稚園教諭 1 名とボランティア学生が各回数数名参加した。さらに、スーパーバイザーの大学研究者 1 名がいた。

3) プレイショップの設定：アイスブレイク、ドラマ遊びを予告する紙芝居の読み聞かせ、ドラマ遊び、描画、発表 (時間の関係で省略されることあり) からなる。プレイショップの思想的系譜と手法については Ishiguro (2017) を参照。7 週に渡って「魔法のランプ」をテーマとした遊びがなされ、主人公、ランプの精、魔法使いという主要キャラクターを大人が演じ、オリジナル劇を子どもと共に作り上げた。1・2 回目はキャラクター別の活動が設定されたが、3 回目以降キャラクター間の葛藤を含んだやりとりが設定された。ドラマ遊び後、6 週において、4~5 名ずつ自由に座り「今日遊んだことを家の人に知らせよう」という指示下で描画が描かれた。

結 果 と 考 察

すべての描画 (11 名分×6 週) を以下 3 項目で分類した。

項目 1) 「物語行動」：3 回目以降、設定された葛藤場面における子どもごとの行動を、表出行動が物語世界に依拠している場合である「物語に媒介された行動 (S)」、そうでない場合の「物語に媒介されない行動 (NS)」に分類した。

項目 2) 「描出内容」：体験された「事実の構成要素のみを描く (F)」、体験内で「意味付けられた物語を描く (N)」に分類。体験していない事項を描いた場合は「非体験 (NE)」。

項目 3) 「他児の描画模倣」：模倣の「有 (+)」, 「無 (-)」を示した。

Table1 にドラマ体験の質と描出内容に関する個人別推移

Table1. ドラマ体験・描出内容・描画過程の個人別推移

			D1 葛藤場面なし	D2 葛藤場面あり	D3	D4 葛藤場面あり	D5	D6
A	1)	物語行動	—	—	S	S	S	S
	2)	描出内容	F	F	N	N	N	N
	3)	他児の絵の模倣	—	—	—	—	—	—
B	1)	物語行動	—	—	S	S	S	S
	2)	描出内容	F	F	N	N	N	N
	3)	他児の絵の模倣	—	—	—	—	—	—
C	1)	物語行動	—	—	S	S	S	S
	2)	描出内容	F	N	F	N	N	N
	3)	他児の絵の模倣	—	—	—	—	—	—
D	1)	物語行動	—	—	S	S	S	S
	2)	描出内容	F	F	N	N	N	N
	3)	他児の絵の模倣	—	—	—	—	—	—
E	1)	物語行動	—	—	S	S	S	S
	2)	描出内容	F	F	N	N	N	N
	3)	他児の絵の模倣	—	—	—	—	—	—
F	1)	物語行動	—	—	S	S	S	NS
	2)	描出内容	F	F	F	N	N	N
	3)	他児の絵の模倣	—	—	—	—	—	—
G	1)	物語行動	—	—	S	S	S	S
	2)	描出内容	F	F	N	F	F	F
	3)	他児の絵の模倣	—	—	+	—	—	—
H	1)	物語行動	—	—	S	S	S	S
	2)	描出内容	F	F	F	N	F	N
	3)	他児の絵の模倣	—	—	—	+	+	+
I	1)	物語行動	—	—	NS	NS	NS	NS
	2)	描出内容	NE	NE	NE	NE	N	N
	3)	他児の絵の模倣	—	—	—	—	+	+
J	1)	物語行動	—	—	S	S	S	S
	2)	描出内容	F	F	F	F	F	F
	3)	他児の絵の模倣	—	—	+	+	+	+
K	1)	物語行動	—	—	NS	NS	NS	NS
	2)	描出内容	NE	NE	NE	NE	NE	NE
	3)	他児の絵の模倣	—	—	—	—	—	—

を示す。葛藤場面が設定された 3 回目から、物語 (N) を描出する子どもが増加した。特に、A, B, D, E の 4 名は 3 回目以降一貫して体験した物語を描いていた。ドラマ体験と描出内容の対応関係をみると、体験した物語世界に基づいた絵を描き、他児の模倣はしない子ども (A~F)、物語世界に関係のない絵を描いた子ども (J, K) に大きく分かれたが、回によっては物語世界に基づいた絵を描いた両者の間にある子どももいた (G~I)。以上のことから、ドラマ遊び時に物語に媒介された行動をした者は、その体験を物語として描く傾向があるといえそうだが、例外も見られた。ドラマ遊びで物語行動をしていたにもかかわらず事実事項 (F) のみを描いた子どもは、物語世界を描いた子どもと情動体験の質が異なっていたのか、それとも描画時にそれを想起できなかったのか。この点にはさらに検討が必要である。物語行動をしていなかったにもかかわらず、物語世界を描いた子もいる (e.g. I の 5, 6 回目)。これには近隣で絵を描いた他児の影響が考えられる。この点についてもさらに個人分析が必要である。

(文献)

Ishiguro, H. (2017) Collaborative play with dramatization. In Bruce, T. et al. (Eds.), Routledge International Handbook of Play in Early Childhood. Taylor & Francis/Routledge, 274-288.

内田祥子・石黒広昭 (2017) 幼児は過去のドラマ遊び体験をどのように描くのか (1) 日本心理学会 81 回大会発表論集 p. 818

内田祥子・石黒広昭 (2018) 幼児は過去のドラマ遊び体験をどのように描くのか (2) 教育心理学会総会発表論集 (in press)

データ収集に際して東学園美晴幼稚園及びプレイショップ関係者の皆様の御協力に心より感謝致します。本研究は JSPS 科研費 JP 17K18056 の助成を受けた。